

映画化された子どもの本

みなさんは楽しい映画を見た後、原作が気になったことはありませんか。今回は、大人も子どもも楽しめる映画化された子どもの本をご紹介します。

1冊目は、バーナード・ウェーバー/作『ワニのライルがやってきた』です。

プリムさんたちが東88番通りの家に引っ越してみると、お風呂場で大きな緑色のワニと出会います。驚いたプリムさんたちでしたが、ライルという名のこのワニの芸達者でフレンドリーなところが気に入り、大切な家族の一員になります。町の人たちもみんなライルのことが大好きになり、あつという間にライルは町の人気者に。しかしある日、ライルの飼い主だという男の人が、ライルを連れて帰りたいと申し出てきて…。

「ワニのライルのおはなし」シリーズの第一作であるこの絵本は「シング・フォー・ミー ライル」というタイトルで今年ミュージカル映画になりました。

ライルと人々の交流がやさしい気持ちにさせてくれる一冊です。

2冊目は、きむらゆういち/文 あべ弘士/絵『あらしのよるに』です。

嵐の夜、一匹のヤギが小屋で雨宿りをしていると、同じく雨宿りをしに誰かがやってきます。ヤギは自分と同じヤギが来たのだと思い声をかけますが、その正体はヤギの天敵・オオカミ。しかし、小屋の中が真っ暗だったため、オオカミも話しかけてくれた相手がヤギだと気が付かず、お互いの正体を知らないまま二匹はすっかり意気投合します。

アニメ映画だけでなく、漫画、小説、舞台化などもされ、二匹の種族を超えた友情は、子どもから大人まで幅広い世代に愛されています。

読むと続きが気になってどんどんページをめくってしまう一冊です。

3冊目は、クリス・ヴァン・オールズバーグ/作『ジュマンジ』です。

ある日、ジュディーとピーターは「ジュマンジ」と書かれたすごろくゲームを拾います。退屈していた二人は家に持ち帰って遊び始めました。ピーターのコマがライオンのマスに止まると、突然どこからともなく部屋にライオンが現れます。「ジュマンジ」は書かれているマスが現実になってしまうおそろしいゲームだったのです。はたして二人は無事にゲームを終えることができるのでしょうか。

オールズバーグの作品は、リアルな絵で描かれた奇想天外な世界が魅力で、この絵本の他にも複数の作品が映画化されています。

最後までワクワクドキドキが止まらない一冊です。

図書館にはこの他にも、映画化された絵本や物語がたくさんあります。ぜひ図書館にお越しください。